

【創業 100 周年の聚楽】

すだちょう

“須田町食堂”創業ヒストリー第3弾を発刊

戦争に翻弄された“苦難の時”

じゅらく
聚楽グループ

ホテルやレストラン事業を展開する株式会社 聚楽（本社：東京都千代田区、取締役社長：加藤 治、以下「当社」）は、2024 年 3 月 10 日に創業 100 周年を迎えました。

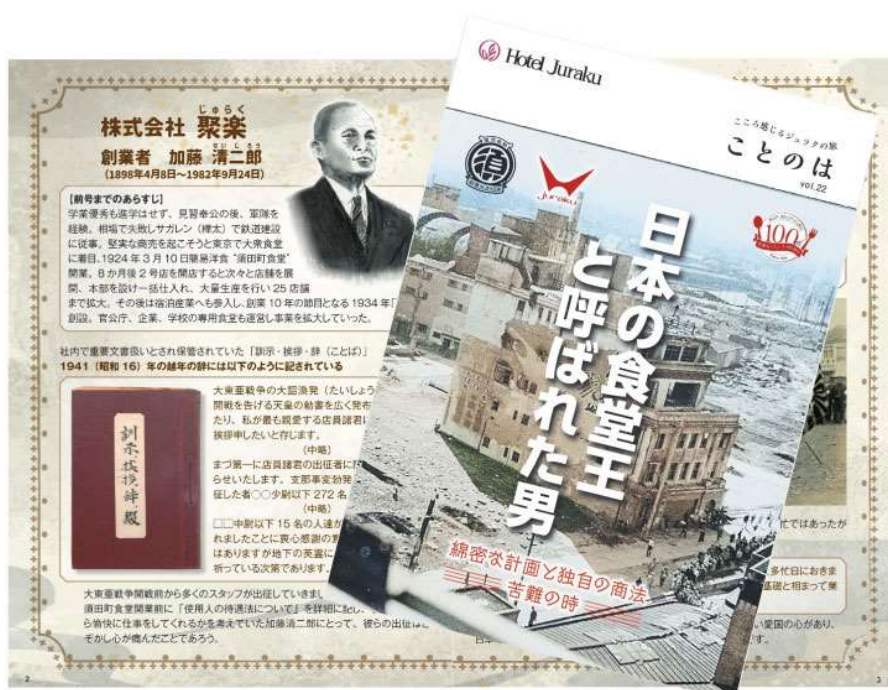
創業者である加藤清二郎は、東京で簡易洋食「須田町食堂」を開業し、綿密な計画と独自の商法のもと 1943（昭和 18）には最大 89 店舗まで広げていきます。

順調だったチェーン展開も時勢には逆らえず、活路を給食事業へと転換していきます。そこで当社が発刊している情報誌「ことのは」第 3 弾で、戦時中～終戦までをまとめたので、聚楽グループの各ホテルやレストランで順次無料配布します。

第 1 弾～第 3 弾まで WEB でも閲覧可能です。

《<https://www.hotel-juraku.co.jp/info/kotonoha/>：「ことのは」Vol.20～Vol.22》

取材及び冊子郵送ご希望の方は(株)聚楽（じゅらく）
info@hotel-juraku.co.jp までお問い合わせください。



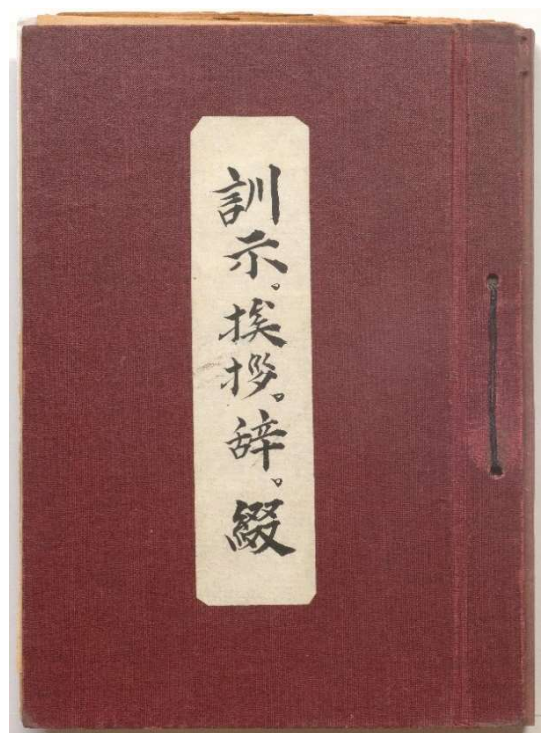
■社内で『重要文書扱い』とされ保管されていた冊子

表紙には「訓示・挨拶・辞（ことば）」とあり、中には創業者：加藤清二郎の言葉が残されていて、1941（昭和 16）年の越年の辞には、以下のように記されています。

「まづ第一に、店員諸君の出征者に関する事をお知らせいたします。支那事変勃発以来、当店より出征した者〇〇少尉以下 272 名。」…（中略）

「〇〇中尉以下 15 名の人達が、護国の鬼と化せられましたことに、衷心感謝の意を表し、毎日寸時ではありますが、地下の英霊に対し心よりご冥福を祈っている次第であります。」

須田町食堂開業以前より、『どうすれば従業員が心から愉快地仕事をしてくれるか』を考えていた加藤清二郎にとって、国や社会を守るために立ち向かう彼らの出征は、さぞかし心が痛んだことでしょう。亡くなった人々の魂が安らかであることを心から願っているとあります。



■戦時中の給食事情

重苦しい戦雲に厳しい食料事情。太平洋戦争に入ると、みそ・醤油に至るまで配給制となりました。こうした世相の中で「軍事工場の給食」に活路を求め、1943（昭和 18）年にはその数を 54 か所まで拡大し、従業員も一時は 5,000 人を超え、一日最低 36 万の給食数を記録しました。



警視庁庁内食堂（左）と横河電機株式会社（右）社員食堂の様子

その一つ、中島飛行機武蔵野製作所の栄養調査報告書には以下の記録が残っていました。

【軍需工場の昼食】

須田町食堂（戦前、大衆食堂と給食請負では第一級の会社）が請け負う巨大な給食施設。

- ・ 一般工員用：朝 3,500 食、昼 6,000 食、夕 5,000 食、別にうどん 2,900 食
- ・ 少年工用：朝昼夕各 2,000 食弱
- ・ 女子寮用：朝昼夕各 1,200 食

料理は分量、食品数、味付けが立川（立川飛行機：直営給食）とは雲泥の差があり良好。

『軍需工場・炭鉱の職場給食を語る（昭和館）より引用』

戦前の大規模な軍需工場での、給食施設の重要性和機能性について述べており、労働者や寮に住む人々の日常生活における、重要な役割を果たしていました。

■伊東・熱海の悲劇【まぼろしの伊東聚楽】

1941（昭和 16）年 7 月 23 日の『鎌田消防団文書 392 沿革誌』によると、同日午前 10 時頃、小川沢の山が崩落、聚楽旅館が埋没し、生き埋め数人あり。直ちに出動せよとの報により、全分団員を引率し、崩壊現場に出動する。現場に到着してみると…

■そして…戦争は終わった…。

1945（昭和 20）年 3 月 10 日、東京は B29 の大空襲を受けました。浅草では店員全員が一丸となって消化活動に奮闘したものの、焼夷弾の雨を浴びて店はたちまち猛火に包まれました。…そして同年 8 月、終戦をむかえました。



1945 年 9 月_焼け残った食堂デパート「新宿聚楽」（カラー化）

株式会社 ^{じゅらく} 聚楽

創業者 加藤 ^{せいじろう} 清二郎

（1898 年 4 月 8 日～1982 年 9 月 24 日）

【前号：創業編のあらすじ】

学業優秀も進学はせず、見習奉公の後、軍隊を経験。相場で失敗しサガレン（樺太）で鉄道建設に従事。堅実な商売を起こそうと東京で大衆食堂に着目し、1924 年 3 月 10 日に簡易食堂“須田町食堂”を開業。8 か月後 2 号店を開店すると次々と店舗展開、本部を設けて一括仕入れ、大量生産を行い 25 店舗まで拡大。

その後は宿泊業へも参入し、創業 10 周年の節目となる 1934 年「聚楽」創設。官公庁、企業、学校の専用食堂も運営し事業を拡大していった。



■じゅらく情報誌「ことのは」設置場所

【宮城県】

- 御酒印船 仙台店

【新潟県】

- ジュラクスティ新潟
- 弥彦山ロープウェイ

【東京都】

- お茶の水ホテルジュラク
- レストランじゅらく上野駅前店
- 須田町食堂 秋葉原 UDX 店
- 酒亭じゅらく上野店・お茶の水店
- ブッチャーズ八百八 御茶ノ水店
- ワインバル Viña Vin Vino
- スペインバル El Chateo del Puente

【群馬県】

- みなかみホテルジュラク

【静岡県】

- 伊東ホテルジュラク

【福島県】

- 飯坂ホテルジュラク

- 亜麺坊 新潟店

- 弥彦桜井郷温泉 さくらの湯

- 浅草聚楽

- 御酒印船 新宿店

- 串揚げじゅらく 上野店・新橋店・アメ横店

- カフェ淡路坂珈琲 お茶の水店

- 明神そば きやり 神田明神前店

- 万座ホテルジュラク

【兵庫県】

- 神戸ホテルジュラク

■会社概要

株式会社聚楽

【創業】1924（大正 13）年 3 月 10 日

【資本金】1 億円

【代表】取締役社長 加藤 治

【住所】東京都千代田区神田駿河台 3 丁目 4 番地龍名館本店ビル 9 階南

【従業員】正社員 570 名／パートタイマー450 名（2023 年 4 月時点）

【事業内容】都市ホテル・リゾートホテル・各種レストラン

【URL】<https://juraku.com/>

<本件に関する報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社 聚楽

広報 担当：堀越 info@hotel-juraku.co.jp